

入選

田原 ちなつ(たはら ちなつ) 檜原小 3年生

作品名:ラッセとマヤが教えてくれたこと

図書:ラッセとマヤのたんていじむしょなぞの映画館

夏休み前、図書室で「ラッセとマヤのたんていじむしょ なぞの映画館」という本を見つけました。たんていが好きなので、かりてみることにしました。

この話は、どうきゅうせいのラッセとマヤが、町の犬をつれさった人ぶつをつかまえるというお話です。読んでみると、いかにもじけんがおきそうで、とてもおもしろかったです。

わたしはラッセとマヤがそこにはん人を入れたところが、一番いんしょうにのこりました。なぜかと言うと、やっとつかまえたはん人が、そこから出てこないかどきどきしたからです。

つれさりのはん人は、映画館ではたらいていた売り子でした。わたしも、読みながら売り子があやしいと思っていました。映画上映中に手を挙げて売り子が来なくて、一番前のせきにすわっていたのが、ふしぎだったからです。でも、犬のつれさは、いつも映画の上映時間に起きていました。映画の上映中に映画館の中ではたらいていたはずの売り子ははん人だと知ったときは「どうしてかな」と思いました。ラッセとマヤが調べてみると一番前のせきにすわったと思っていたら、はん人のぼうしはいすの上ののっているだけでした。そのとき「なるほど」と思いました。

わたしは、このお話を読んで、しょうらいのゆめが一つふえました。それは「たんていになる」というゆめです。なぜなら、さいごまであきらめないで、みんなのためにじけんをかいけつするラッセとマヤが、とてもかっこいいなと思ったからです。わたしは、これから先くじけそうになったときでも、二人のようにあきらめないでがんばろうと思います。

また、お話の中では、

「すいりをするとき、はん人がのこしていった手がかりと、いろいろなことをつなげていく」

と書いてありました。だから、これから新しい勉強をするときは、自分が知ってい

ることとつなげて、いろいろなことが分かるようにしていきたいです。

わたしにあきらめない大切さと、いろいろなことをつなげる大切さを教えてくれた「ラッセとマヤのたんていじむしょ」の本はシリーズものなので、他のお話も、もっと読んでみたいです。